

第64回 宇部市廃棄物減量等推進審議会議事録

- ・日時 令和3年7月8日(木) 18時30分から 20時30分
- ・場所 リモート開催(事務局:宇部市役所 3階 総合戦略局内会議室)
- ・出席委員

(会長)	樋口隆哉	中野陽一
	有部正治	山中直美
	新谷弘昌	田中康司
	竹内彩結実	阿部正和
	角野いづみ	木原裕子
	小島桂一	菅野弥生
	熊切泉	山本紀子
	幸恵里	亀田能史

- ・欠席委員

隅田典代 前川由香理 大城明夫

- ・宇部市一般廃棄物処理基本計画策定業務受託者 株式会社東和テクノロジー 藤満、江崎
(宇部市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則第4条第4項による出席)

- ・事務局

市民環境部長	原田俊宏
市民環境部次長	黒瀬寛文
廃棄物対策課長	上田康次郎
環境保全センター施設課長	田中芳和
環境保全センター施設副課長	植田昌吉
廃棄物対策副課長	中村隆行
廃棄物対策課ごみ減量推進係長	川口修平
廃棄物対策課ごみ減量推進係主任	西村純一
廃棄物対策課ごみ減量推進係係員	門田友亮

- ・資料

- 1 (資料1-1) 令和2年度総括表
- 2 (資料1-2) 令和2年度ごみ排出量
- 3 (資料1-3) 令和2年度事業報告
- 4 (資料2-1) 家庭ごみに関する市民アンケート調査結果(速報)
- 5 (資料2-2) 事業系ごみに関する市民アンケート調査結果(速報)
- 6 (資料3) 宇部市一般廃棄物処理基本計画骨子について

・次第、議事録

- 1 市民環境部長あいさつ
- 2 新委員の紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 議題
 - (1) 令和 2 年度の事業報告について
 - (2) 宇部市一般廃棄物処理基本計画策定に係るアンケート結果について
 - (3) 宇部市一般廃棄物処理基本計画骨子について

会長	では本日の議題 (1)「令和 2 年度の事業報告について」、事務局から説明をお願いする。
事務局	【資料 1 - 1】「令和 2 年度総括表」説明 【資料 1 - 2】「令和 2 年度ごみ排出量」説明 【資料 1 - 3】「令和 2 年度事業報告」説明
会長	燃やせるごみのなかで、収集ごみの 1 人 1 日当たり原単位をすでに計算されているならどのような推移を示すのか。
事務局	令和 2 年度の燃やせる収集ごみの原単位は、465.9 g、令和元年度は 467.8 g、平成 30 年度は 469.3g、平成 29 年度は 475.3g。平成 28 年度は 488.3 g 原単位としては減ってはいるが、下げ止まりの傾向となっている。
会長	資料 1-1、1-2 について質問はないか。
委員	燃やせないごみが増えている要因はなにか。
事務局	令和 2 年度に関してはコロナの影響があると考えている。
委員	コロナの影響で、家で過ごすことが多くなって燃やせないごみが多くなったのは理解できるがコロナの影響のみか。
事務局	コロナの影響は、令和元、2 年度であるが、平成 29、30 年度も増加している。宇部市では、人口は減少しているが世帯数は増加しているので、転居等に伴う家内整理で燃やせないごみが増加したということも考えられる。
会長	資料 1-3 事業内容について質問はあるか。事業についての今後のアイデアがあれば、ご意見を伺いたい。
委員	古着・古布リサイクルで、交付金を分配することになったとあるが、交付前後では収集量がどの程度変わったか。
事務局	令和元年度から開始し、平成 30 年度から 20%増加しているので交付金の効果があると考えている。
委員	地区によって差があるのか。全体的に増えているのか。

事務局	校区地区によってばらつきはあるが、傾向としては全体的に増加している。
委員	ダンボールコンポストの一般講習の開催数が5回で減少しているがどのように考えているか。
事務局	平成30年度の12回より減っているのはコロナ禍で講習会が中止になっているため、令和2年度も同様に回数が減っている要因になっている。
会長	「7 子育て支援」について回収実績と譲渡実績は、回収されたものが譲渡されているのか。不適物も入っているのか。
事務局	基本的に回収したものは譲渡されている。中には汚れの付着したものや破損状態の不適物も混じっているのでは、数字自体は一致しない。
委員	子育て支援の需要はまだあると考えているのか。
事務局	考えている。
委員	「8 ダンボールコンポスト」について、ダンボールコンポストは、1年ごとに買うものなのか。
事務局	ダンボールコンポストは3か月ほど食品残渣を投入し、ひと月熟成期間を経て4か月で一つのダンボールコンポストの役目が終わる。続けられる方は3か月終わったら次のダンボールコンポストを準備している。
委員	販売数が横ばいということは、新しい人たちの開拓が出来ていないということか。
事務局	課題である新規ユーザーの開拓のため、昨年度からグループで利用可能な補助金制度を開始している。
委員	どれぐらいの規模まで広げられる見込みか。
事務局	明確な目標はないが販売数を昨年度実績より増加させたいと考えている。
委員	「3 レジ袋の代用実証」について、認知度が低いから購入数が伸びない理由が書いてあるが、商品を宇部市の指定ごみ袋に入れ持ち帰るということに抵抗感があるのではないか。
事務局	意見をお聞きした中では、食品をごみ袋に入れることに抵抗がある方、ごみ袋として使用できることに利便性を感じる方もいると聞いている。
委員	他の自治体で実施されている燃やせるごみ削減のための施策を宇部市でも実施する予定はあるか。
事務局	他市の先進的な取り組み等を情報収集しながら、費用対効果など検証し施策につなげていきたい。
委員	「8 ダンボールコンポスト」について、購入者の情報がわかるか。
事務局	申込書に記載があるので、購入者の情報把握は可能である。

委員	リピーターが多いか、新規が多いのか分かるか。
事務局	リピーターが多いが、助成制度を活用した新規も増加しているという認識である。
委員	「9 家庭系廃食油のリサイクル」について、回収量が増えているが、今後バスなどでの利用は考えているか。
事務局	以前、宇部市営バスでも利用していたがバイオディーゼルと相性が良くなく、不具合につながった。現在はときわ公園のパッカー車で利用している。
委員	今後、バイオディーゼル専用のタンクやバスを助成金で作る予定はないか。
事務局	バイオディーゼルは民間事業者で精製し、市は回収の支援をしている。廃食油使用への啓発で関わっていききたい。
委員	「3 レジ袋の代用実証」について、宇部市で前向きな動きはあるのか。
事務局	今回の実証実験で得た販売方法などのノウハウを、他の事業所を訪問する機会に紹介していききたい。
委員	基本的に燃やせるごみを減らすことが課題であって、根本的な事を考えてはどうか。
事務局	啓発を中心にした取り組みを行っており、様々な方に減量に対する取り組みを行っていただくことで減量に対する意識を高めていききたい。
会長	レジ袋は多くの人に使われており、プラごみ削減についての関心は高まっている。市民に訴えかけるきっかけづくりの1つの手段として活用していくのが大事なのではと思う。いろいろな意見が出たので、今後の施策に活かしていければと思う。
事務局	資料 2-1 宇部市民アンケート結果について概要説明
コンサル	調査結果について説明
事務局	資料 2-2 事業系ごみに関するアンケートについて概要説明
コンサル	調査結果について説明
会長	資料 2-1 について質問やご意見あればお願いします。
委員	問 9 指定ごみ袋の有料化の意見が回答 18.8%とあるが、世代別の数字が分かれば教えて欲しい。
事務局	世代別の数字はまだ出していない。
会長	今後、詳細な集計をされると思うが、ご指摘があったものも含めて、重要な点についてはクロス集計もお願いできればと思う。
委員	家庭系、事業系アンケートともごみの分別のルール広報・啓発について関心が高い。今後どうすれば市民に理解しやすいのか、市の取り組みについてどのような周知方法

	をとればいいのか、それが市に問われていると思う。
事務局	ごみ減量施策の周知が中心になるが、広報誌やWEBサイト、スマホのアプリなど取り組んできた。事業所に対しても多量排出事業所へパンフレットで啓発を行ってきた。また、地域の自治会の協力を仰ぎながら地域の方と一緒に取り組みを強化していきたい。
委員	啓蒙啓発は市民に伝わらない部分があるが、どのように周知すれば実施してもらえるかが重要で、地域としても協力して周知を進めていきたい。
会長	事業系ごみのアンケートが初めてなので、調査の仕方や設問の設定の仕方で気づきがあれば教えていただきたい。
事務局	委員の皆様もお気づきの点があれば、ご意見を聞きながら伺いながら反映していきたい。
事務局	議題3 宇部市一般廃棄物処理基本計画骨子について説明
コンサル	内容について説明
事務局	スケジュールの説明
会長	資料3についてご意見ご質問はないか。
委員	指定ごみ袋の有料化をする場合の軽減措置について伺いたい。
事務局	指定ごみ袋の有料化を議会へ提案したが、令和2年6月に撤回している状態である。現在は、ごみ減量のための指定ごみ袋有料化の必要性について地域の講習会等で周知を進めている。軽減措置については、より具体的な段階で検討を進めていきたい。
委員	軽減措置に伴う費用は、ごみ袋を有料化して得られる収入から充てられるのか。
事務局	ごみ袋の有料化に伴う歳入が充てられる予定である。
会長	次期計画に盛り込むべき点として特に重要なのはどのあたりなのか。
事務局	前計画では、「3Rの推進」、「適正なごみの処理の推進」の2点を大きな柱としてきた。骨子では、ごみ処理の現状と課題、アンケート調査結果で取り組んでいくとしている。
会長	骨子に具体的な施策がならんでいるが、前計画だと重点取組は色分けがあった。骨子では、広く取り上げるべき施策として今回は示されているのか。
事務局	重点取組を基本計画に示していくが、前計画からの大きな変更点として、食品ロスの削減、プラスチックの資源循環の促進について国の法律整理を含めて方向性を示していく。それに基づいて排出・分別の取り組みについて現段階の可能な範囲で記載していく。

会長	社会的な背景として、食品ロスやプラスチックなどいろいろな動きがあるなか、脱炭素への動きが急速に進みつつある。廃棄物もかなり関与している領域であり、ごみの焼却施設も地域のエネルギー供給拠点との見方もある。資源循環もその一部なので、そのあたりも計画の背景などに入れることを検討していただきたい。
会長	意見がないようなので、以上で審議会を終了する。